

## 【研究情報の公開について（オプトアウト）】

通常、臨床研究を実施する場合は、文書もしくは口頭で説明・同意を行い研究を実施をします。臨床研究のうち、侵襲・介入を伴わない研究（診療情報等のみを用いた研究や診療後に余った検体のみを使う研究）は「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に基づいて対象の患者さんから直接同意を取る必要はありませんが、研究の実施についての情報を公開して患者さんに拒否の機会を保障することが必要とされています。このような手法を「オプトアウト」と言います。オプトアウトを用いた研究は、提供試料を使用した課題一覧に掲載します。研究への協力を希望されない場合は、問い合わせ窓口の担当者までお知らせ下さい。研究への協力を希望されない場合でも、何ら不利益を受けることはありません。

### →提供試料を使用した課題一覧

課題番号	課題名	対象臓器	実施期間
<u>R06-007</u>	患者がん組織からのオル	乳がん、膀胱がん	倫理審査委員会

	ガノイド樹立および新規 治療標的を確立するた めの応用研究		承認後～2034 年 3月 31日
--	-------------------------------------	--	----------------------

\* 課題番号をクリックすると詳細が表示されます

課題番号：R06-007
研究課題名：患者がん組織からのオルガノイド樹立および新規治療標的を確立するための応用研究
実施代表施設：筑波大学 実施責任者：
実施期間：倫理審査委員会承認後～2034年3月31日
対象となる試料・情報
<p>・倫理審査委員会承認後～2029年3月31日に当院で手術を受けた患者試料・情報</p> <p>・「診療で採取した組織、血液をつくばヒト組織バイオバンクセンターで保管することについてのお願い」（2016年9月以降）、及び「筑波大学附属病院で診療を受けられる患者さんへ」（2016年9月以前）により同意の得られた患者試料・情報</p> <p>■組織（対象臓器：乳房、膀胱 対象疾患：乳がん、膀胱がん）</p> <p><input type="checkbox"/>血液試料</p> <p><input type="checkbox"/>臨床情報（            ）</p>
研究の目的、意義
<p>乳がんは全体としては比較的予後の良いがんではありますが、その性質は多様であり、よい治療薬が見つからないタイプの乳がんもあります。筑波大学では効果の高い治療薬の開発が望まれている乳がんに対する、治療薬の開発を目指しています。</p> <p>膀胱がんにおいても全体としては比較的予後のよいがんですが、筋層浸潤型やリンパ節、遠隔臓器への転移がある場合は予後が悪くなります。膀胱がんに発現している</p>

タンパク質を標的とした治療薬はなく、筑波大学では、より効果の高い治療薬の開発を目指しています。

#### 実施方法

本研究では、乳がんおよび膀胱がんの患者さんからバイオバンクに提供された腫瘍組織、及び診療情報を用いて研究を行います。組織を細かくした後、3次元的に培養し、長期間の培養ができるかを検証します。培養によって増やした細胞（オルガノイド）を用いて、治療標的となる分子の探索や薬剤効果判定などを行い、研究成果は乳がんや膀胱がんを含むがんの治療薬の開発などに役立てます。余分なオルガノイドは、保存液に入れて凍結保存します。また、本研究の内容は、承認された倫理審査委員会（筑波大学附属病院臨床研究倫理審査委員会）で審査され、各機関の長の承認が得られています。凍結保存した細胞を使って新しく研究を始める時は、承認された倫理審査委員会（筑波大学附属病院臨床研究倫理審査委員会）に改めて申請をして承認が得られた後に使用します。本研究を行うために、手術で組織を余分に採取することはありません。

#### 問い合わせ窓口

筑波大学附属病院つくばヒト組織バイオバンクセンター（担当者 竹内）

電話/Fax : 029-853-3715

E-mail : bank298@hosp.tsukuba.ac.jp